

多摩市健幸まちづくり基本方針(案)に対するパブリックコメント等を受けた修正箇所一覧

	寄せられた意見(要約)	該当ページ	市の考え	パブリックコメント実施時点	修正後
1	いきなり副題で「～行政の取組方針」とあるのは、せつかくの「市民とともに」の視点が消え失せ、これは市役所のやる仕事というイメージを読む者に強く印象づけてしまう。 全体から行政主導となっている印象を受ける。本文にもあるとおり、行政が担うことがふさわしい事業以外は、環境づくりと側面支援に徹することが肝要だ。市民が「創り、動き、知る」営みが、市民のなかから生まれ、育ち、市民とともに歩むという連鎖的な運動の成果として、本方針が確立されることを望みたい。	表紙・3	健幸まちづくりは、行政だけで実施していくものではなく、様々な主体が主体的に、又はともに連携・協働して、健康で幸せなまちをつくっていく取り組みであり、この点が最も重要です。ご指摘を受け、副題を修正し、「まちぐるみの取り組み」であることを表現しました。	多摩市健幸まちづくり基本方針 ～健幸都市・多摩の 実現 に向けた 行政の取組 方針～	多摩市健幸まちづくり基本方針 ～健幸都市・多摩の 創造 に向けた、 まちぐるみの取り組みの基本 方針～
2	”世界に誇れる“というのは大きすぎる。	3	これまでに実施した市民ワークショップやイベント等での市民意見募集等では、「世界一を目指すべきだ」とのご意見もいただいております。市の意気込みを示すため、原案のとおりとしました。	世界に誇れる健幸都市を目指します。	—
3	わざわざ「スマートウェルネスシティ」との言い換えは不要である。	4	ご指摘の部分は、第五次多摩市総合計画・第2期基本計画の記述を書き抜いた部分のため、原案のとおりとしました。	「健幸都市(スマートウェルネスシティ)・多摩の創造」と銘打ち、「第五次多摩市総合計画・第2期基本計画(平成27年4月)」において、すべての施策を貫く、取組の方向性の一つとして打ち出しました。	—
4	「幸せ」の定義を「自己肯定感を持って、主体的に行動し、よき隣人(仲間)とつながっている状態」としてはどうか。	5	幸せは人とのつながりの中で実感することが多いと考え、健幸まちづくりでは、人との交流を幸せを実現する要素ととらえ、「人と人のつながりを増やす」取り組みを進めてまいります。 しかし、「幸せ」は内面的なものであり、外部から規定されることへの反発もあると考えられること、一人を好む者も居ると考えられることから、定義にあたっては、だれもが同意できる基礎的な部分にとどめることが良いと考え、原案のとおりとしました。	「幸せ」は、主観的なものであり、どのような状態が「幸せ」に該当するかについては、個別具体的には人それぞれ異なるものですが、健幸まちづくりにおいては、自己肯定感(長所も短所も含めて、自分の価値や存在を肯定できる感情)を持って、主体的に行動している状態と定義します。	—
5	「自己肯定感」を「存在感」としたらどうか。	5	「自己肯定感」は、「長所も短所も含めて、自分の価値や存在を肯定できる感情」のことです。「存在感」とは異なるものであり、代替できないため、原案のとおりとしました。	「幸せ」は、主観的なものであり、どのような状態が「幸せ」に該当するかについては、個別具体的には人それぞれ異なるものですが、健幸まちづくりにおいては、自己肯定感(長所も短所も含めて、自分の価値や存在を肯定できる感情)を持って、主体的に行動している状態と定義します。	—
6	高齢者と障がい者の家族(介護)支援に対しては弱い。家族はなかなか自己肯定感や幸福感を持ちにくいと考える。	5	基本方針を踏まえ、誰もが健康と幸せを実感できるまちの実現を目指し、取り組みを実施して行きます。	—	—
7	「世代の多様性を増やす」の意味が分からない。「多様な世代の交流」のどこか。	7	「世代の多様性を増やす」とは、人口の世代構成の多様性を増やし、多様な世代が交流し合うまちを目指すとの意味です。現在の多摩市の年代構成は、ニュータウン開発期に増加した世代(当時20-40歳代/現在60-80歳代)を中心に高齢化が進んでいます。若い世代の流入が一定程度に留まり、少子化の進行もあいまって、今後、世界最速級のスピードで高齢化が進むと予測されています。若い世代の流入、定着促進を図る取り組みを進めて行きます。	—	—
8	「フレイル」の用語は一般化していない。可能な限り分かりやすい言葉と表現とで、親しみを持てるような工夫をすべきである。	8	ご指摘のとおり、「フレイル」という言葉の認知度はまだ低い状態です。多摩市では、「フレイル」の言葉の認知とともに、フレイル期は一定の機能回復が可能とされていることや食事や運動による介護予防の重要性の認識が広がることを期待し、「フレイル対策」について取り上げているものです。より伝わりやすくなるように、表現を修正しました。	(フレイルの注釈) フレイル(加齢により心身が弱ってきた状態)については、 ・・・が明らかとなってきています。	加齢により心身が弱ってきた状態を フレイル といいます。 フレイル については、 ・・・が明らかとなってきています。

多摩市健幸まちづくり基本方針(案)に対するパブリックコメント等を受けた修正箇所一覧

	寄せられた意見(要約)	該当ページ	市の考え	パブリックコメント実施時点	修正後
9	「死生観の獲得」とは、医療費の適正化へと導くための提起なのかとの誤解を生む。宗教観とも密接に関わる複雑な側面を併せ持つため、削除すべきである。		「死生観の獲得」は、老いや終末期に関する知識を得ることで、人生の最期まで自分で選択し、自分らしく過ごせるようになり、また、それによって生きている日々の輝きが増すと期待するものです。医療費の適正化そのものを目的とするものではありませんが、結果的には繋がるものと考えています。ご指摘を受け、誤解を避けるために、「人任せの画一的な延命措置」「医療費の適正化」の言葉を削除しました。また、個人の信条に基づくべきである宗教観について押し付けるものでもないため、誤解を避けるため表現を修正しました。	(死生観の獲得の注釈) 「死を自分事としてとらえ、どのように生きたいかと同様に、どのように逝きたいか」を考えることで、生きている日々の輝きが増すと期待できます。 終末期に関する知識を得ることで、 「死を必要以上に恐れることなく、人生の最期まで自分で選択し、自分らしく過ごせるよう 支援することが大切です。	「 若い 」や「 終末期 」に関する知識を得て、「死」をどのように迎えるのか、どこで暮らし、どのような介護・医療を選択するのが自分らしいのか、あらかじめ考えることで、人生の最期まで自分で選択し、自分らしく過ごせるようになり、生きている日々の輝きが増すと期待できます。また、納得のいく逝き方を追求すること、死の質(QOD: Quality Of Death)を追及することは、自分の意思で自ら望む医療を選択する形への転換を進め、 満足度の高い終末期の表現 につながります。
10	「行政のしかけ」によって「幸」という「主観的なもの」に踏み込む理由は、医療費や介護費の伸びを抑える効果、大往生に向けての暮らし方・逝き方を選択、人生の最期も自己決定、死生観の獲得ということかと思うが、市民にとっては作為体験(させられ体験)と思える部分もある。	8	「死生観の獲得」は、老いや終末期に関する知識を得ることで、人生の最期まで自分で選択し、自分らしく過ごせるようになり、また、それによって生きている日々の輝きが増すと期待するものです。医療費の適正化そのものを目的とするものではありませんが、結果的には繋がるものと考えています。ご指摘を受け、誤解を避けるために、「人任せの画一的な延命措置」「医療費の適正化」の言葉を削除しました。また、個人の信条に基づくべきである宗教観について押し付けるものでもないため、誤解を避けるため表現を修正しました。	また、納得のいく逝き方を追求すること、死の質(QOD: Quality Of Death)を追及することは、 人任せの画一的な延命措置から、 自分の意思で自ら望む医療を選択する形への転換を進め、 満足度の高い終末期と医療費の適正化 につながります。	
11	「多摩市の魅力の再発見」という視点が良い。	12	ありがとうございます。 多摩市には、緑が豊か、歴史や文化などの見所が多い、歩行者専用道路や公共施設が充実している、坂道・階段が多い、など、様々な魅力があります。こうした魅力を活用し、多摩市ならではの健幸まちづくりを進めて行きます。		
12	「市民の持つ潜在力の活用」という視点が良い。	12	ありがとうございます。 多摩市には、知識欲、活動意欲のある市民が多く、現在も様々な地域活動が実施されていますが、まだ地域活動に踏み出していない市民の潜在力に大いに期待しています。行政としては、より多くの市民が何らかの地域活動に参画していけるよう、取り組みを進めて行きます。		
13	「顧客の健幸は収益確保にもつながる」との表現は不適切である。	14	ご指摘を受け、表現を修正しました。	顧客の健幸は 収益確保にも繋がります。	顧客の健幸は 地域経済の活性化に繋がります。
14	「行政の横断的な取組みによる効率化」の視点が良い。	15	ありがとうございます。 健幸まちづくりの推進のためには、「市民の健幸」という共通の目的の実現のため、行政内部でもこれまで以上の連携・協力が不可欠です。部署横断的な取り組みを進めて行く中で、効果的なアイデアや手法が生まれるとともに、効率化も図られると期待しています。		
15	「選択と集中による大胆な改革」の視点が良い。	15	ありがとうございます。 行政の予算や人的資源には限りがありますが、健幸まちづくりの推進のために、知恵を絞って行きます。		
16	行政の横断的な取組みによる効率化や選択と集中による大胆な改革の前提として、第五次総合計画の事業仕分けに基づく総括的検討と情報公開が不可欠である。	15	第五次多摩市総合計画の振り返りは別途実施いたします。		
17	部署横断的な連携の具現化として、「地域ケア会議」を高年齢支援課ではなく、健幸まちづくり推進室で実施することを提案する。いろいろな課題について話し合うことができ、地域包括的な支援体制を築けると考える。	15	ご提案いただきありがとうございます。 健幸まちづくりは多岐にわたっており、すべての部署が担当との精神で、密な情報共有を図りながら推進して行きます。地域での包括的な支援体制については、高齢者支援を担当する高年齢支援課ほか福祉の担当課とともに進めることとしております。		
18	事業分類と指標化はそれ自体が目的化する恐れがある。	16	ご指摘を受け、事業分類と指標化について、一義的に評価するものではないとの意図がより伝わりやすいように表現を改めました。	健幸まちづくり全体の取り組みの検証・見直しは、次に示す 指標 を把握することにより行います。個別の健幸まちづくり事業の検証・見直しは、事業実施時に設定した数値目標や期間などに沿って行います。 目標の達成状況を把握するために、以下の指標の動向を把握します。その他、 目標の達成状況を把握できる指標があれば 追加します。	健幸まちづくり全体の取り組みの検証・見直しは、次に示す 様々な指標の動向 を把握することにより行います。個別の健幸まちづくり事業の検証・見直しは、事業実施時に設定した数値目標や期間などに沿って行います。目標の達成状況を把握できる指標があれば 適宜追加します。

多摩市健幸まちづくり基本方針(案)に対するパブリックコメント等を受けた修正箇所一覧

	寄せられた意見(要約)	該当ページ	市の考え	パブリックコメント実施時点	修正後
19	本方針の裏付けと言うべきは、モノ、カネの具体的なイメージ(つまり予算、資源と言ったもの)と、市民の側から見て全体の流れのチェックが可能となる工程表もぜひ提起すべきだと思う。		ご提案ありがとうございます。 行政の予算や人的資源には限りがありますが、健幸まちづくりの推進のために知恵を絞って行きます。健幸都市の実現に向けて、現在どのような状況にあるのかについては、関連指標の動向を明らかにする等により、示していくこととしていますが、全体像を市民と共有する方法については、さらに検討を進めて行きます。		
20	「人と人がつながる」という発想が良い。		ありがとうございます。 多摩市の健幸まちづくりでは、人との交流が健幸的な生活を実践しやすい環境づくりにおいても、暮らしの安全・安心、世代の多様性を増やす取り組みのいずれにおいても重要な要素と考えています。		
21	「由らしむべし知らしむべからず」だけは願ひ下げにしたい。		多摩市の健幸まちづくりは、市民とともに取り組むことを基本にしております。様々な情報を市民に開示し、進めて行きます。		
22	風俗店は、住宅の建ち並び、ファミリーが多い多摩市には、ふさわしくないため、行政の力でなんとか移転させてほしい。		ご意見として受け止めます。		
23	食や運動だけに目を向けるのではなく、医療の助成も検討してほしい。祖父は年をとってから定期的に歯科健診にかからなくなったため、寝たきりになってからおいしいものを食べられなくなった。そういう人が出ないように、ブラッシングの無料講習や無料の歯科健診を検討してほしい。		多摩市では、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳の方に対し、無料の歯周病検診を実施しており、個別に通知を発送してお知らせしています。また、多摩市は、医師会、歯科医師会、介護サービス提供事業所等の関係機関と共に、その人に合った在宅療養を、医療・介護のチームで支える連携を進めています。介護が必要であったり、障がいや病気のために歯科医院を探すことが困難な市民の方を対象に、個々の状況に応じた歯科医院を紹介しています。		